

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立高豊中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-3211

愛知県豊橋市伊古部町原 2 4 番地 1

E-mail takatoyo-j@toyohashi.ed.jp

Website http://www.takatoyo-j.toyohashi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 188 名 女子 158 名 合計 346 名

幼児・児童・生徒の年齢 (12)13 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自主・協力・創造」の心を養い、知・徳・体の調和と統一のある人間性豊かな生徒を育てることを教育目標としている。ESD を地域の自然や人に目を向け、将来よりよい地域社会を育てていくための学習活動と捉え、ESD の実践を通して地域の人や自然と積極的に関わり、そのよさや改善すべき点に気づき、自ら働きかけていく力を育成することを目標とした。

具体的には、環境学習、地域の産業の学習を柱に、①優れた自然の保全に関わる活動、②生命や自然の尊重と地域文化の継承に関わる教育、③地域の主産業である農業に関わる学習を行った。

① 優れた自然の保全に関わる活動「海岸クリーン活動」

当校の校区は、本州でも有数の規模を誇る自然砂浜海岸である「表浜」に面している。この砂浜には、多くの海浜植物や砂浜特有の昆虫が生育し、アカウミガメが産卵のために上陸する。サーファーや釣り人にも愛される浜である。本校では、生徒会役員の呼びかけをきっかけに、この表浜のクリーン活動を 31 年間続けてきている。

平成29年度の海岸クリーン活動は、11月10日に行われた。この秋に台風がいくつも通過したこともあって、砂浜には多くのごみが半ば砂に埋もれるようにたくさん打ち上げられていた。開始前に自然観察指導員の資格をもつ教員の話聞き、多くのごみのうち、アカウミガメがクラゲと間違えて誤食するビニールやマイクロプラスチックのもとになるプラスチックごみ、海岸特有の昆虫が匂いに誘われて入り込んで出られなくなる空き缶を特に意識してクリーン活動を行った。

P T Aや地域の方の協力により、集めたゴミを資源化センターへ搬入して活動を終えた。

② 生命や自然の尊重と地域文化の継承に関わる学習「ササユリボランティア」

当校の位置する渥美半島の付け根は、地層が若く、激しい海蝕を受けてきた。そのために現在は、丘陵の南半分が失われ、海岸崖の頂上が過去の丘陵の頂上部になっている。この丘陵は、昭和30年頃のエネルギー革命以前は、薪や焚き付けを集めて現金収入を得る里山の松林であった。その里山にはササユリが多く、子どもたちが手折って町へ売りに行き小遣い稼ぎをしていた。エネルギー革命以降里山は利用されなくなり、常緑樹の侵入によってマツは枯れ、林床が暗くなってササユリは消えていった。わずかに生き残ったササユリを地域の住民がを見つけ、保存会を立ち上げて環境を改善して増殖をはかっている。当校生徒会はこの活動に11年関わり続けている。

生徒たちは、保存会の指導のもと、ササユリの保全やササユリ祭りの手伝いなどに積極的に取り組んでいる。ササユリ祭りでは、来場者の接待、保存会の活動資金を得るための花卉の販売を手伝っている。

③ 地域の主産業である農業に関わる学習「農業体験学習」

豊橋市の南部は、有数の農業地帯である。農家の子女も生徒にいますが、本校の生徒の多くは、校区にある大企業の社宅や公営住宅、最近開発された住宅地に住んでいる。身近に畑が広がっているが、農業にふれることはない。1年生の生徒全員が地域の主産業である農業を体験し、地域の人と交流する学習の機会を設けている。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

豊橋自然史博物館の学芸員による出前授業
日本自然保護協会 自然観察指導員による講話
伊古部ささゆり保存会の会員による指導と講話
愛知県環境審議会専門調査員による講話と指導

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校では、教育目標を受けて生徒の目標として「くじけない心」「労を惜しまぬからだ」「信頼する仲間」「大きな希望」の頭文字をとり、「くろしお魂」という生徒信条を掲げている。

その信条のもと、教育課程のうち、主に環境教育の指導計画にユネスコスクールの活動を組み込んでいる。活動を年間行事計画に入れ込み、外部講師を積極的に活用するなど、指導方法を工夫して取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

当校の海岸クリーン活動は今年で 31 年目、ササユリボランティアは 11 年目と長期間にわたって行われてきた。海岸クリーン活動は昨年、国土交通大臣表彰も受けた。けれども、長年にわたり活動だけが継続され、その活動の意義についての学習があまり行われてこなかった。

そこで、今年は活動を年間計画に位置付けるとともに、その意義についての学習を多くの外部講師を招いて進めてきた。平成 28 年度に立ち上げた中学校区おやじの会「くろしお支援隊」にも中学生の活動のサポートをお願いしている。

生徒は多くの人や、校区の素晴らしい自然にふれることを通して、豊かな人間性を育ていけると考える。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の評価は学校評議員会が行っている。評議員にくろしお支援隊のメンバーをいれることで、評価だけでなく協働もしていただけるので、実際に生徒の活動にふれながら的確な評価がなされている。メンバーは着実に増加しており、地域全体の学校への関心を高めている。一方で、協働作業の際に支援隊のメンバーにかかるべき保険金の予算源がなく、その活動を長く安定して維持していけるか不安がある。財政的な援助をどこから得るかが問題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

P T A および地域住民を対象とした、地域の自然環境に関する講座を開催している。参加者からは、渥美半島の自然について、新たな情報やより深い知識が得られたと、喜ばれている。

2018 年度は、ササユリの里祭りとタイアップして行われる地区市民館の自然観察会に講師を派遣して、実地での観察や体験を通して、地域の自然の価値をより深く認識してもらう予定である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成 (地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など) (200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

公的機関との交流 (講師の派遣依頼・情報交換)

- ・ 豊橋自然史博物館
- ・ 豊橋市環境部自然環境課
(アカウミガメ保護対策協議会委員として本校校長が参加)
- ・ 愛知県環境部自然環境課

NGO、NPO 等との交流 (指導助言をいただいている)

NPO 法人東三河自然観察会 三河生物同好会 愛知植物の会

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他地域の学校等との交流は、時間的・経済的・人的な制約もあり、現状としては取り組めていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・ 海岸クリーン活動の意義を再確認したことで、活動の意欲が目に見えて高まっている。くろしお支援隊をはじめとする地域の方たちの協力も、いっそう大きくなっている。

・ ササユリ保全活動に取り組む伊古部笹百合保存会の方たちと、学校・生徒の交流がより活発になった。植物について見識の深い本校職員の参加により、保存会の活動も意義が深まっている。保全活動の一部をカリキュラムに組み込むこともできつつある。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

・ 6月3日(土)～4日(日)に開催されるササユリ祭りに、生徒・職員がボランティアとして参加予定。今年は、地区市民館主催の行事も組み込まれており、地域の方への学校からの発信の場が、より広がっていくと考えられる。

・ 10月の農業体験学習ではササユリの保全活動も一部に組み込まれる予定である。

・ 11月10日(土)に海岸クリーン活動が予定されている。今年度から、くろしお支援隊ならびにPTAのバックアップのレベルが上がり、午前中授業ののち、午後クリーン活動を行い、PTA・くろしお支援隊の準備して下さる豚汁をいただいて終わる行事になる予定。